



NEWS!
2007.8月号

[発行] NPO 法人グリーンコンシューマー大阪ネットワーク 〒553-0006 大阪市福島区吉野 4-29-20 大阪 NPO プラザ119号
郵便振替 00920-8-154437 年会費 1 口 2000 円(個人 1 口以上、学生半口以上、団体 3 口以上、賛助会員(会社)5 口以上)
TEL & FAX: 06-6462-2775 携帯: 090-8989-5182(代表山口) <http://www.geocities.jp/gconosaka/> gcon-osaka@onp.or.jp

大阪府の[共生の森]、ご存知ですか。

大阪府の産業廃棄物最終処分場、埋立てが完了した約 280ha(甲子園球場の約 20 倍)のうち約 80ha を海の森にしていこうという計画が 2003 年から実施されています。

現在、大阪にある海洋性の木などを中心に 18 種類の樹木を植え、雑草等の草抜きなど毎月 1 回定例活動として行っています。

猛暑ながらも良い天気にも恵まれた 7 月 29 日(日)、草抜きに当会メンバーも参加、太陽を遮る大木もなく草刈に精を出しました。クーラーのある都会生活では体中から搾り出すような汗をかく事は滅多にありませんが、サウナより爽快で自然の海風がこんなにも気持ちいいと感じたことはないくらい爽やかでした。

自然の復元力、野鳥の生命力のすごさを実感したのは、ひとつには、活着剤で植えられた木は何日も日照りが続いても、自然の雨水だけで十分に育ち、元気であるということ。次に、下草刈をした草地にはてんとう虫などの昆虫がたくさんいて、私たちが休憩している合間にツバメなどが虫取りに精を出して草原を飛び回っていたこと。最後は、草原の草に巣をつくるセッカイの親鳥の帰りを待つひなや、雨水がたまり自然にできた池には鴨などの野鳥が沢山住んでいたことです。

自然の再生は、破壊した人間がする責務であること、また、木を植えることが自然の摂理としての原点としてとても重要であることが体感できました。

現在、当会は学校紙ごみプロジェクトを行っていることもあり、紙の原料となる木を植え(共生の森の植林は紙原料の為ではありませんが...) 温暖化防止策のひとつとして大阪の森づくりを進めることの大切さに思いを馳せた一日となりました。

<http://www.pref.osaka.jp/midori/kyousei/enq.html>



上: 共生の森にある雨水が溜まった池。鴨など水鳥も住んでいる。

下: 草刈作業風景。

共生の森

「共生の森」は、人と自然とが共生していくために、都市が失ってきた生物の生育・生息の場である美しい緑や水の環境を創造していくことを目的とし、行政のみならず市民・NPO等の参加のもと整備を図る場所です。

場所は、堺市西区築港新町の「堺第7-3区」。南海本線「石津駅」から車で約15分。

当会が加盟している大阪府民環境会議(略称: OPEN)が大阪府より事業委託をうけ、OPENの理事である大阪自然環境保全協会のメンバーが専門的な任務を担っています。

